

病診連携通信

慢性腎臓病の地域連携について

2007年4月の第5次医療法改正により、各々の医療機関の機能に応じた医療連携を行い、疾病別に治療管理を実践していこうとの方向性が打ち出されております。

しかしながら、腎臓専門医は全国に3000人程度にとどまっており、すべての腎臓病患者様に対して十分な時間をかけて診療することは不可能な状況です。当院では慢性腎臓病(CKD)の患者様を、地域の先生方と一緒に診察できるシステムを構築し、地域医療に貢献したいと考えております。先生方のご指導とご協力をお願い致します。

腎臓内科主任医長 筒井 貴朗
腎臓内科医員 溜井 紀子
腎臓内科医員 岩渕 裕子

【腎臓内科の紹介対象患者】

- ① CKDステージ2以上の慢性腎臓病の方
- ② 尿蛋白陽性または、尿蛋白潜血ともに陽性の方

お問い合わせ

日高病院 病診連携室 TEL:027-362-6201
電話でご予約をたまわります

【ご紹介いただいた際の流れ】

ご紹介いただいた患者については、腎臓機能障害の原因精査を行います

症例に応じて腎生検を施行し治癒を目指します

進行を止めることができない腎臓機能障害については、機能保持を目指した治療を行います

下記のような指導を行い、ご本人・ご家族の自己管理を徹底することで、腎臓病の経過を改善し得ることを理解して頂きます

- 慢性腎臓病学習入院
- 食事指導
- 投薬調整
- 腎臓病教室の参加



腎臓病教室の様子
日高病院6階大会議室
(平成22年10月16日)

状態が落ち着いて、治療方針が決定するまでの間、数か月～半年程度は当院で加療致します。その後は、原則的に紹介元医療機関の先生方に検査・投薬などお願い致します。3ヵ月～12ヵ月に一度当科を受診していただき、診察・検査の結果から、栄養指導や投薬調整を行います。残念ながら腎臓機能障害が進行してしまう症例では、CKDステージ5となった時点で当院に治療をお任せいただき、腎代替療法(透析、移植)の準備を開始致します。

【慢性腎臓病学習入院の内容】

- ① 慢性腎臓病の進行遅延を図るべく、生活習慣改善や治療の調整を試みます。
- ② 血圧管理の強化:腎臓機能障害の進行を抑える適正な血圧管理を行います。
- ③ 食事療法の体得:腎臓病の食事を実際に召し上がっていただき、管理栄養士による指導により食事療法の基礎を習得していただきます。
- ④ 腎臓の働きや現在の腎臓機能障害の状況、進行抑制のための方法、将来の腎臓機能障害の進行予想、等を、医師、看護師からなるチーム体制で、指導を行います。
- ⑤ 検査データの見方、治療薬の役割等を説明・指導します。
- ⑥ 動脈硬化関連検査:
慢性腎臓病では、動脈硬化性疾患を発症しやすいので、心臓超音波検査、末梢動脈脈波検査などを行います。
- ⑦ 理学療法士より腎臓機能に見合った運動療法を指導します。
- ⑧ 医療ソーシャルワーカーから、透析導入になった際に受給可能な社会保障についてお話しします。
- ⑨ 入院期間は原則として6日間です。
入院中に予定外の検査・治療が必要な場合、入院期間が延長となる可能性があります。